



やすらぎ

芙蓉会

理事長挨拶 医療法人社団 芙蓉会 理事長 四ヶ所 大

今回は、令和7年度の事業計画について発表させていただきます。各項目の取り組み強化を目指し、今年度から短期目標、中長期目標を設定しております。

短期目標

- ① 業務効率化
 - ② 千葉医療法人における施設整備計画
 - ③ 全事業所における事務局の組織再編
 - ④ 全事業所における稼働率引き上げ
 - ⑤ BCP計画に基づいた訓練の強化
- ①3月に正式稼働となった電子カルテへの対応を継続。新しい取り組みは手間暇かかる煩わしさもあるが、効率化というゴールに向けて前向きに取り組む。また昨年度同様にロボット、AI、ICT等の実用化推進による人員基準要件緩和への対応を実施する。
- ②千葉芙蓉病院における慢性的な人員不足、役職者の後任等の諸問題が解消されていない。現況を見極め、施設整備計画の再考を実施。今後の在り方を決定していく。
- ③事務局の組織再編、本部（町田市）機能の強化を継続。部署名及び業務内容の再構築を実施する。
- ④全施設における稼働率引き上げは、直面している紹介状況を考慮し、スピーディーな受け入れに向けて体制の強化と改善を図る。在宅事業所における利用率向上は、居宅介護支援事業所を中心に新規利用者の開拓を実施し、利用率の向上に努める。
- ⑤昨年度から義務化されたBCP計画の整備を継続。感染症、自然災害等の発生時における医療・介護

サービス提供の維持継続と早期復旧を目指す。

中長期目標

- ① 人員不足に伴う雇用の改善
 - ② 各種規程とマニュアルの整備
 - ③ ふよう病院（町田）のリニューアル構想
 - ④ 次世代管理職候補の育成と研修の強化
- ①外国人労働者については、現在、町田市ふよう病院で特定技能外国人としてフィリピンから5名、インドネシアから14名。君津市芙蓉病院で技能実習生としてインドネシアから12名を採用している。今後も雇用環境の改善を継続する。
- ②電子カルテ導入後のマニュアル整備を実施。理念達成に向けた組織運営を目指し、病院の質向上を目指す。
- ③ふよう病院（町田市）のリニューアル構想については、数年前に購入した隣地（現在・駐車場として利用）を利用し、B棟改修を中心に機能維持を図る。また外来の活性化を目指し、クリニック開設も視野に入りたい。
- ④次世代管理職候補者の育成については、組織再編と研修強化等を合わせて、新人、中堅、層からの抜擢を実施する。

また例年同様に「三方よし」の精神を見習い、ご利用者よし、スタッフよし、世間よしの精神で取り組む。地域に根差し、ご利用者に満足していただけるサービス提供とは何か。スタッフが満足する施設、事業所のあるべき姿とは何か。法人全体の取り組みとして、運営方法を追求してまいります。

「老人は国の宝」

医療法人社団 芙蓉会（事業所一覧）

- ・ふよう病院
- ・ふよう病院介護医療院
- ・芙蓉ミオ・ファミリア町田
- ・千葉芙蓉病院
- ・グループホームあおぞら
- ・デイサービスふれあいルーム



2025年2月認知症研修「徘徊」と「帰宅願望」について

発行者：ふよう病院 佐藤院長

内容：今回の研修では、予てから多かった「実例を挙げて対処方法を教えてほしい」という要望に応える形で、法人内2施設のご利用者をピックアップし、それぞれの施設で実際に行っている対処方法を紹介。その方法について説明さ

れました。アンケートからは、「研修を通じて認知症の方の徘徊や帰宅願望には理由があり、その背景を理解した上で柔軟な対応策を検討することと、職員間の情報の共有がとても大切であることを学んだ。」という声が多く聞かれました。

2025年2月 ハラスメント研修

発行者：人事課 磯部主任

内容：ハラスメント予防についての認識の向上を図るため、ハラスメントの基本的な定義と、法人の方針、相談ルール及び関連規定を中心とした書面研修を行った。

過去の研修後のアンケート結果から、「継続的

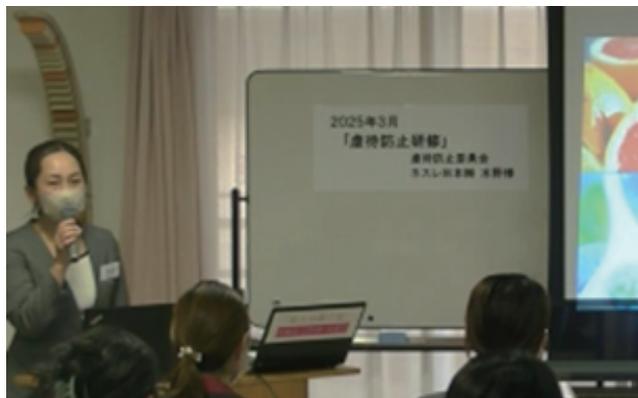
な研修実施」「定期的なアンケートの実施」「職員向け目安箱の設置」等の要望が挙げられていたが、法人の相談窓口では、個人情報十分に保護されたうえで相談に対応しており、安心して相談できる体制であることもアナウンスする内容とした。

2025年3月虐待防止研修「身体拘束の最小化について」

発行者：ネスレ日本株式会社 管理栄養士 水野希望 様

内容：今回の虐待防止研修は、病院における身体拘束最小化を実現するためには、どのような方法や心構えが必要かを、成功事例を通して皆で考えるという内容で、ネスレ日本株式会社様のご協力を得て実施しました。病院での身体拘束ゼロを目指して、実際に取り組み、成果を上げられている千葉県にあるH病院の看護部長様が作成された事例発表動画を視聴させていただきましたが、動画の最後に「身体拘束ゼロを目指して取り組んだ病院で、転倒事故等が増えたところは1件も無いという事実と、誰のための拘束なのか、それは本当に患者様のためなの

かを皆で考えていくことが重要です。」と言われたことに、今後の院内での身体拘束の在り方を問われたように感じました。



2025年3月第1回事例発表会

内 容：介護保険・職場環境等要件にある「やりがい・働きがいの醸成」区分の②「ケアの好事例や、利用者やその家族からの謝意等の情報を共有する機会の提供」に合致する取り組みとして、法人内8部署において、介護職員を中心に一定期間に取り組んだケア事例を発表し合う「事例発表会」を、初めて開催しました。それぞれの発表に対し、審査員が「①良い着眼点か②研

究内容は深い考察ができているか③資料の出来栄④発表の内容はわかりやすかったか⑤発表の仕方に聞き取りやすさや工夫があったか」の項目で点数を付けて順位を決め、1位はグループホーム、2位はふよう病院B3病棟に決定しました。見習うべき取り組みをされた部署が多く、今後も継続して実施していく予定です。



優勝のグループホーム



2位のB3療養棟

2025年3月特定技能介護職員向けオムツ交換勉強会

講 師：ユニ・チャーム株式会社 おむつアドバイザー2名

内 容：法人でご活躍いただいている19名の特定技能外国人の方達を対象に、ユニ・チャーム株式会社様による「腰痛予防を考慮したおむつ交換勉強会」を開催していただきました。おむつアドバイザーの方達から基本的な紙おむつの当て方のレクチャーを受け、交代でモデルとなって紙オムツを当ててもらい合うという内容でしたが、オムツをされる方の気持ちがわかった方がより良いケアができるということに気づかれたようでした。

